

きたすま

永遠の命に至る食べ物のために働きなさい (ヨハネ6・27)

No.217(8月号)

2021年8月1日発行

発行 カトリック北須磨教会

〒654-0151

神戸市須磨区北落合2-3-1

発行人 高橋 聡

編集 広報委員会

夏休みの思い出

林 和則 神父

神戸西ブロックの皆さま、暑中お見舞い申し上げます。

子どもの頃の私にとって、夏休みの一番の楽しみは母の実家に泊まりに行くことでした。母の実家は和歌山県の紀ノ川のほとり、高野山のふもとにありました。母方の祖父母や伯母の家族がいて、年の近い従兄たちもいました。近くの神社の森や小川でのセミ取りや沢ガニ取り、地元の小学校の地下水が使用されているプールが一般に開放されていて、そのものすごく冷たい水の中での水泳、神社の夏祭りなど、楽しいことがいっぱいでした。

そのような毎夏恒例の楽しみの中に公民館での若いお坊さんのお話がありました。高野山の真言宗の僧侶の方が地元の子どもの向けにお話しや映画会をしてくれて、帰りにはお菓子をもらえることもあって行っていました(今思えば地藏盆であったのかも知れません)。その中である年のお坊さんの話がとても心に残っています。それは「天部の神さま」についてのお話で、ぼんやりとした記憶ですが、確かこんな話でした。

「皆さんがもし、お坊さんになってしっかりと修行をすれば、天部の神さま(毘沙門天などの神々です)の上に立

って、その神さまに命令して動かすことができるようになりますよ。」それにたいしてある子どもが「へえー、魔法のランプのハクション大魔王みたいや。じゃあ、お坊さんたち、何でも好きなことをしてもらえるんやな〜。」するとお坊さんは笑いつつ「いえいえ、自分のための願い事をしてはダメなんですよ。そんなことをしたら天部の神さまが怒ります。『おまえは僧ではないか。人びとのために修行し、生きる者だ。それを自分の欲のために生きるのなら、お前は僧ではない』と言われて、ひどい時には、そのお坊さんの命までうばわれてしまうことがあるんですよ。」子どもたちのほとんどが「ええ〜こわいわ〜、そんなんやったら、お坊さんになんかなりたくないわ」と失礼なことを言っていたものでした(私もふくめて)。

そして今、司祭になった私は、もちろん「天部の神さま」を動かすようなことはできません。でも、僧侶のように司祭も「自分のためではなく、人びとのために生きる人」にならなければいけないと思い、自戒のこことばとしています。



マリスタ教育修道士 Br アレン 誓願式

7月18日のミサの中でマリスタ教育修道士 Br アレンの誓願式が行われました。現在マリスタ教育修道士会には Br 吉田、Br オー（呉）、Br アレンの3人がおり、今回誓願を立てた Br アレンは3年程前にフィリピンより来日、日本語を学びながら修業中です。この度、北須磨教会の信徒の皆さんの前で有期誓願（1年）を立てることを選択されました。また、Br アレンの誓願の後、Br 吉田、Br オーの誓願の更新もおこなわれました。修道会の誓願式が私たちの小教区で行われることで、マリスタのプラザー達とより近しくなったように感じられました。



修道会創始者 聖ジャンパニア神父（1789～1840）



昼間の星 (7)

マリスタ修道士会 吉田 治美

私の一番上の兄は九歳年上の背の高い、私には近寄りがたい存在であった。戦時中はどこかの高射砲隊に属していた。二番目の兄は三歳年上の、私には大好きな兄であった。その兄は中学四年生の時、予科練に志願し、島根県的美保閩航空隊に入隊し、訓練に励んでいたが、訓練半ばで終戦を迎えた。終戦後、二人とも無事に復員して来た。

上の兄は熊本、福岡、東京の税務署に勤めた後、東京の下北沢で税理事務所を開き、成功していたが、六十九歳で胃癌で亡くなった。次の兄は知人も、つてもない東京へ飛び出して行った。その後しばらくして、日本橋の交番に勤務しているという知らせがあったが、それきり連絡が途絶えた。三十年以上もたって、ある病院から連絡があり、私は上京し、その病院で久しぶりに兄に会って驚いた。胸骨だか肋骨だかを一本切除し、そこから心臓を出てすぐの大動脈が膨張していたのを切除したという。手術は成功して退院したが、手術痕の恐ろしいほどの傷跡に言葉が出なかった。

それから何年かたって、また手術をするという。今度は背骨と平行に体内を上から下へ走る大動脈の一部が、胃の後ろあたりで、大きく膨張しているのを、病院のレントゲンで見せてもらった。手術には六時間かかるという。私は手術室の外で六時間待った。幸い手術は成功の裡に終わった。でも考えてみると、兄はそれらの病気の前後にも、生活の上で、健康面で、ずいぶん苦労していたに違いない。私たちには何も知らせずに、独りで頑張っていたのだ。

この後さすがに私も考えた。次にまた何かあると、もう助からないかも知れない。せめて兄を洗礼に導いておきたい、この思いで、折を見て上京した。兄は東京都 23 区の、西側の小川市に、新しい三棟のアパートの一棟に住んでいた。そこから私鉄に乗り、一回乗り換えて、小平駅で降り、十分ほど歩くとカトリック小平教会がある。神父様にお目にかかり、御挨拶し、兄の事情を話して、何とか兄を洗礼にまで導いていただけるような信者さんがおられないかとうとう、「おりません」とのご返事。そしてすぐ「あんたがやんなさい」「えっ、私がですか?」「そうよ、あんたがだ」。私は明日にでも神戸に帰る予定だった。兄宅に帰り、事情を話し、兄さんも洗礼を受けないか。神父さんは、「あんたがやれ、と言われるけど、それでもいい?」と私が言うと、兄は真面目な顔で「うん、そうするよ」と頷いた。兄と私は畳の上に正座して、私は公教要理にある通りに、兄に洗礼を授けた。

神戸に帰った後何日かして小平教会から、「教会からのお知らせ」のようなものが送られて来て、私の兄が小平教会で初めてミサに与り、信者の皆さんに紹介された、とあった。車で送迎していただいたらしい。その後月に一回、神父様が信者さん一人と一緒に、兄のアパートを訪問され、聖体拝領もさせてくださっていると兄から連絡

があった。神父様は鹿児島出身と前に信者さんからうかがっていたが、熊本に長い私には、九州人同士の神父様のややぶっきらぼうなお話しぶりが却って気持ちが伝わって、神父様との問答はいまも忘れないでいる。

数か月ほどして、小川市のある病院から連絡があり、兄が一か月ほど入院していたが、亡くなったとの連絡があった。八十八歳であった。私は兄が生活保護を受けていたことを知っていたので、前回訪問したとき、予め小平市の市役所を訪ね、係の人と打ち合わせ、万一の時の処置について相談をしておいた。市役所の方ではすべてを打ち合わせ通りに、丁寧にきちんと事を運ばれ、遺骨は私の許に届き、かかった経費の清算もすべて済ませることができた。遺骨は小さな骨箱に入れて、今は亡くなられた後藤神父様にミサを立てていただき、その後、熊本の山の上のカトリック教会合同墓地の納骨堂に安置させていただいた。

私には福岡に弟夫婦がいる。二人とも同じ年だ。弟はニコニコしていて口数の少ない、温厚な人間だ。しかし口数の少ないところが奥さんの静子さんには少し不満だ。静子さんは反対にお話しするのが好きで活発な人。私は夏休みになると、神戸を朝六時に出発し、途中休み休みしてゆっくりと福岡に着き、弟宅に一、二泊させてもらう。翌日の熊本の姉、妹宅へは二、三時間で着けるから、弟が仕事に出かけたあと、朝の台所で静子さんとお茶をいただきながらお話しをする。話は色々だが、弟の口数の少ないことへの不満も出る。話しかけても、何をしているときでも、最小限の返事しか返ってこないのよ、と。私も弟はよく知っているから、静子さんの不満も分からないでもない。夕方仕事から帰ってくると車を置いて、玄関に回らず、勝手口からぬっと入って来て、ただいまと言う。言わない時もある。日曜日などは、海が割に近いのでまだ暗いうちから魚釣りの準備をする、帰って来る時は車の中が生臭い。そうだろうね、と私は相槌を打つ。犬を散歩に連れて行ってもなかなか帰ってこない、犬の散歩か自分の散歩か、本人も分かっておらっしゃらんとよ、と博多弁で言う。聞いているこちらでも少し疲れて来る。そこで、気分転換に教会にドライブでも行ってみようか、と言ってみると行く、行くと言うので、車で三十分ぐらいの吉塚教会に行ってみた。ややご年配の神父様にお会いして三人でお話をしていると、神父様が聖書の勉強会が近く始まりますと言われると、静子さんがえっ私も来ていいですかと聞く。もちろんですと話は決まった。気分転換になると、よほど嬉しかったようだが、続くかなと思っていたら、バイクで通い始めて一年ぐらい続き、洗礼にまで漕ぎ着けた。私は静子さんを見直した。洗礼式には私も一緒に式に与ってお祝いをした。

あれから何年になるか、その間に静子さんと弟は、大名町の合同納骨堂に、二人の場所も取ってあります、と静子さんが言う。弟はいつものようにニコニコして、シルバーの草取りか何かの仕事に出て行く。昨年、私はその弟とゆっくり話をしたくて、博多に行った。静子さんは留守だったので弟とゆっくり話をし、泊まらずに帰って来た。その後電話をしたら静子さんが出て「史朗さんは今度のクリスマスに洗礼を受ける予定です」と嬉しそうに言う。クリスマスに、弟は八十一歳で洗礼を受けた。

神に感謝。

評議会より

☆第1回評議会開催☆

緊急事態宣言のため予定より遅れましたが、7月18日に今年度第1回の評議会を開催いたしました。各委員会からの現状報告を中心に進行し、情報共有を行いました。主な内容は以下の通りです。

- 聖体奉仕者がいない地区があるため、養成の方向で検討中【典礼】
- この3か月で収入は約92万で年間の13%、支出は約35万で年間の5%（通常は共に25%）【財務】
- レターケースに配布物が入らない状況があるため、自宅郵送を検討【広報】
- 5月より炊き出しがセンターでの調理で再開、7月もセンターでの調理【社活】
- 敬老の集い、遠足が中止の場合の代替案を検討中【高齢者支援】
- 小さなお子さんが数少なく、今年は初聖体の対象者なし。コロナで活動停止状態【青少年】
- 教会の鍵の整理を実施する。
ホールにエアコン設置の報告【総務】
- 連絡網の再整備を各地区で実施予定。
教会清掃について検討する。【総務】
- その他 神戸地区評議会報告 / 葬儀ガイドライン作成 / 堅信式(対象2人)を北須磨単独で実施の方向で検討
今年度は評議会の議事録をホールのホワイトボードに掲示をします。より詳しい情報はそちらをご覧ください。

☆ホール冷房設置の件☆

前評議会から引継ぎを受け、ホールの冷房設置を進めています。既に業者からの見積もりが出ています。クーラーを2機設置し、入り口付近にパーテーションをすることで効率良く冷房ができるようになるということです。経費は約260万円です。

ホールはミサ後に交流の場として、また炊き出しの準備など様々な活動に利用されます。葬儀の際には遺族の方々が待機される場所にもなります。コロナが収束すれば再びホールが広く使われることとなります。

さらに以前より猛暑日も多くなり、駅から歩いて来る方は相当な暑さとなります。信徒の高齢化が進む中、熱中症対策としてはもちろんのこと、教会の中に入って、ほっとした気持ちになっていただければと考えています。

社会活動委員会

☆炊き出し☆

8月10日(火)の炊き出しはカム・アンド・シーの生徒さん達と一緒に、このコロナ禍への配慮からセンターでおにぎりとお味噌汁を作り小野浜で配食することになりました。お手伝い頂ける方よろしく願いいたします。

お知らせ

☆受洗されました☆

第7地区 MMさま
洗礼名 ラザロ
2021年7月27日
北須磨教会にて

洗礼のお恵み
おめでとうございます

編集後記

東京オリンピックが開催されています。コロナのことを心配しながらもアスリートの熱戦を見ている時はコロナなどすっかり忘れていました。昔から、スポーツ競技には我を忘れて熱狂させる効果があるのですね。

(GTH)

マンスリースケジュール8月



日・曜日

2021

8/1 日	年間第18主日 ミサ 10:00～ 第2・4地区
2	月
3	火
4	水
5	木
6	金
7	土
8 日	年間第19主日 ミサ 10:00～ 第1・6B・7地区
9	月
10	火 社会活動委員会 炊き出し
11	水
12	木
13	金
14	土
15 日	聖母の被昇天 ミサ 10:00～ 第3・6A地区
16	月
17	火
18	水
19	木
20	金
21	土
22 日	年間第21主日 ミサ 10:00～ 第2・5地区
23	月
24	火
25	水
26	木
27	金
28	土
29 日	年間第22主日 ミサ 10:00～ 第1・4地区
30	月
31	火
9/1	水
2	木
3	金
4	土
5 日	年間第23主日 ミサ 10:00～ 第3・6B・7地区

注) 緊急事態宣言が発令されると公開ミサはありません
 その際、再開については、連絡網にてお知らせします



カトリック北須磨教会ホームページ <http://cathkitasuma.web.fc2.com>

葬儀用電話の運用は終了しました。緊急時は高橋神父(090-6329-5709)にご連絡ください。